



## 感謝の気持ちを持つ

朝、交通安全指導をしてくださっている方から次のような話をお聞きしました。

「中学生の挨拶がどんどん良くなってるね。すばらしいことです。中でもすごいのは、私に『ありがとうございます』とお礼を言ってくれる生徒、それ以上に感動するのは止まってくれたドライバーにお辞儀をしてお礼を言ってくれる生徒がいるんです。」「そこまでできるのは、もう人（人間性）だよな。」「ドライバーもほっこりした気持ちになってよかったなあとと思うでしょうね。」という会話をしました。

今年の夏の甲子園で東北の高校として初めて仙台育英高校が優勝しました。その快進撃は大会を大いに盛り上げてくれましたが、私は特に近江高校の山田投手に注目しました。近江高校は去年の夏ベスト4、今年の春準優勝、そして今回もベスト4に入った強豪校です。そのマウンドを2年生の時から守っているのが山田投手です。ピッチングはもとよりバッティングもすばらしく、チームのキャプテンも務めています。特に、私が感心したのは、彼の人間性です。勝っても対戦相手や相手チームのすばらしさを認める謙虚な姿勢、これまで一緒に歩んできた仲間や応援してくれた人への感謝の気持ちがありました。準決勝の敗戦の後に、相手チームがグラウンドから先に退場する際、相手チームの監督選手一人一人にお辞儀をして見送る姿は山田投手の人柄を表しているように思いました。悔しい状況の中でも相手を思いやり称える姿に感心しました。他にも、出場したいろいろな学校の選手が、進んで帽子やバットを拾ってあげたり、キャッチャーマスクを渡してあげたりする様子を多く目にする事ができました。野球だけではなく、一つのものに打ち込むことを通して多くのことを学び、身につけた資質だと思います。技術だけではなく人間的にも成長していることに感動しました。

「2度目のお礼」という話を聞きました。「きのうはごちそうになってありがとう」、「〇〇を貸してくれてありがとう」、「あの時のアドバイスがとても役に立ったよ」、「先日はごくろうさまでした」・・・などと伝えれば、その時のお礼はもとより、その後の報告を兼ねた2度目のお礼はどれほど喜ばれることでしょうか。必ず2度のお礼を伝える必要はありませんが、日本語で最も美しいとされる「ありがとう」という言葉をいわれてうれしくない人はいないはずです。

修学旅行を受け入れているホテルに宿泊した生徒たちが感謝の言葉を残していったというニュースがありました。それは、すでにそのホテルを出発した後にわかったことだったそうです。「おいしいごはん、ありがとうございました。」「良い思い出ができました。」メッセージは、食事のお膳紙や箸袋に書かれてありました。内容はホテルで提供された食事やスタッフへの感謝の言葉だったということです。後の取材で感謝のメッセージを残すことは、すべて生徒たちの意思で行われたことだとわかりました。それに対してホテルの人たちは、「お食事を作ることは私どもの毎日の仕事ですが、こんなにうれしいことはありません。皆様の思い出作りのお手伝いできて光栄です。」と言葉を綴ったそうです。

このような話にふれるとすごいなあと感心するとともになんだかとても温かい気持ちになります。「あいさつ」は自分から心を開いて相手に迫っていくことであるといわれています。自分たちと関わってくれる人たちを気にかけて、礼を尽くし、感謝の気持ちを示すということは、実際なかなかできないことです。しかし、一人でも二人でもそんな人が増えていけば、陵東中生の意識は益々高まるのではないのでしょうか。そして、応援してくれる人や協力してくれる人が必ず増えると思います。